

柿の栽培指針

①目標収穫個数

樹 齢	1 樹あたり着果数
20年生以上	150～200果
10年生以上20年生未満	100～150果
5 年生以上10年生未満	20～80果

(1)10aあたり収穫目標を1 果実重200～300 g で4,000～5,000果とする。

(2)30年生以上の成木で管理しにくく、収穫果数が100個以下の樹は計画的に植え替える。

②結実管理

結実確保 三社柿では結実を安定させるため受粉樹の効果が大きい。高接ぎを含めて園地には10m おきに受粉樹を配置する。

摘 果 2 L～3 L（200～300 g）の柿を収穫するため7月下旬までに30～35葉に1 果となるよう摘果する。

(1)1 結果枝の中で基部、先端部の果実を摘果し、中央部の果実1 果を残す。

(2)結果枝の長さが10～15cm くらいで弱い枝が多い樹では結果枝4～5 本に1 果とし成り過ぎを防ぐ。

(3)結果枝が20cm 以上で果実が大きくなりやすい樹では結果枝4～5 本に1～2 果とする。

(4)変形果（ヘタスキ果など）、キズ果（枝ズレなど）は見つけ次第摘果する。

(5)**ヘタスキ果対策**

1）**受粉樹の高接ぎ** 樹全体にムラなく着果させることができる。また、種子が確実にはいった果実は初期肥大がよくヘタスキが軽減される。

2）**弱剪定と摘果の調整** ヘタスキ果が発生しやすい樹は樹勢が強く果実が大きくなりすぎるので弱剪定とし、結果枝4～5 本に1～2 果となるよう摘果する。

③施肥基準量

区 分	施肥時期	肥 料 名	施 肥 量 (kg/10a)		
			10年生未満	10～30年生	30年生以上
基 肥	11月 ） 3 月	※堆肥等有機質資材			
		牛糞堆肥	5 m ³	5 m ³	5 m ³
		バーク堆肥	8 m ³	8 m ³	8 m ³
		醗酵けいふん	300kg	300kg	300kg
		苦土石灰	100kg	100kg	100kg
		BB有機入り柿専用 (N-10, P-8, K-8)	90kg	120kg	140kg

※堆肥等有機質資材は上記の内いずれか1 種類を1～2 年に1 度施用する。

※堆肥は完熟したものを施用する。

※葉色が淡く果実肥大が悪いときは、(6～7 月梅雨明けまでに)BB有機入り柿専用(20kg/10a)を施用する。

※樹勢が強い場合は、BB有機入り柿専用肥料の施肥量を減らす(目安は2 割減程度)。

④野そ駆除

(1)メリーネコりん化亜鉛を根雪前に巢穴1 か所あたりに1～5 g を投入する。

(2)樹幹の周囲の敷ワラ、堆肥、雑草等は根雪前に取り除く。

(3)若木の場合は野そ被害防止のため、金網や肥料袋（ビニール袋）等を幹の周りに巻く。

⑤粗皮削り・落葉処理

(1)休眠期間に落ち葉を集めて処分する。（落葉病予防対策の基本）

(2)粗皮削りを行いカイガラムシなど越冬害虫の密度低下を図る。

⑥縮間伐と整枝の必要性

(1)管理作業の効率化、薬剤や日光の透過性を良好にするため20年生以上の成木では10a 当り植栽本数30～35 本を目標に樹冠の拡大に合わせて適宜、縮間伐をすすめる。

(2)安全に作業するため高い枝を整理して樹を低くする。

⑦縮間伐・整枝・せん定作業の進め方

(1)隣の樹と混み合ってきた場合、どちらの樹を大切にするか決め、片方を縮間伐する。

(2)地上1.5～2.5m の高さで幹からでている枝は作業しやすく、雪害を回避できるので主枝として残す。（あらかじめテープなどでマークしておくとうい。）

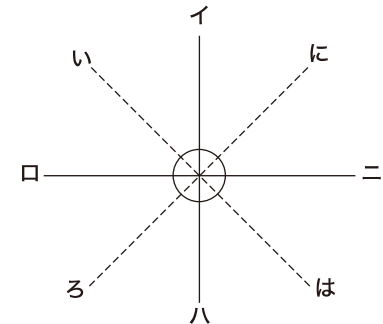
(3)残したい主枝に日陰をつくる枝から切除する。

(4)樹を低くするため主枝の背中に直立する枝を切除する。

(5)葉をかかりやすくするため幹に対する分枝角度が狭い枝を切除する。

(6)機械の通路にあたる枝や草刈りの邪魔になる枝を切除する。

①**枝が多い場合(樹を真上から見下ろした図、中心の○が幹)**



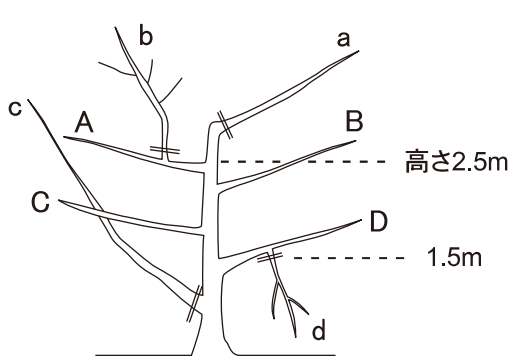
最初の太い枝を切る前に樹をひとまわりし、

イ・ロ・ハ・ニと残すか

い・ろ・は・にと残すか

主枝同士の間隔が十分に空くように切る。

②**主枝の選びかた(A・B・C・Dを主枝として残し、a・b・c・dの枝を切除する場合)**



切除する枝(切除する理由)

a. 主枝と平行している枝
(主枝の日当たりをよくするため)

b. 主枝の背中の立ち枝
(樹を低くするため)

c. 分枝角度が狭い枝
(主枝に葉がよくかかるように)

d. 防除・草刈りの邪魔になる枝
(作業安全のため)